

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	杉戸町立西小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	0	18	24
児童数	101	98	113	91	99	84	0	586	

研究の概要

1. 研究主題

<p>すすんで学び、すすんで実行する子どもの育成 - 確かな学力の向上を図る教育の推進 - 「総合的な学習の時間・生活科・算数科」の学習をとおして</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>3年～6年「総合的な学習の時間」 教科等の学習を切り口に発展する本校の総合的な学習は、教科学習の基礎・基本の確かな習得を図ることを大切にしているため。</p> <p>1年・2年「生活」 総合的な学習の研究と関連した研究実績があるため。</p> <p>1年～6年「算数」 これまでの少人数指導における児童の実態から、理解の状況に個人差が出やすい教科であるため。</p>

(2) 年次ごとの計画

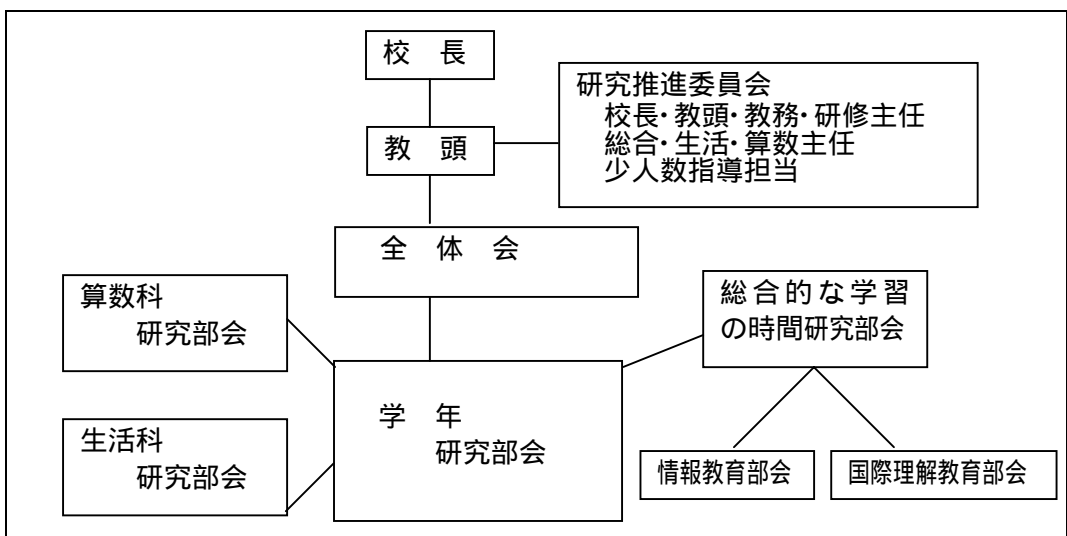
平成14年度

平成15年度	<p>テーマ - 確かな学力の向上を図る教育の推進 - 総合的な学習の時間：教科と直結し、発展する総合的な学習の時間で学力向上を図る。 生活：知的な気付きのできる生活科学習で、学力の向上を図る。 算数：少人数習熟度別学習を工夫した算数科学習で、学力向上を図る</p> <p>研究の見通し(仮説) 授業研究を中心に、実践的な研究を目指す。 (仮説) 総合的な学習の時間・生活 ・合科的・関連的学習を進め、基礎・基本の確かな定着をもとに課題発見を行い、人、自然、地域と関わる問題解決的・体験的な子ども主体の学習活動を展開すれば、すすんで学び、すすんで実行する子どもを育てることができるだろう。</p> <p>算数 ・児童一人一人に応じた指導・支援を工夫すれば、基礎・基本が確実に身につく、児童はすすんで問題解決を行い、確かな学力の向上が図れるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 総合的な学習の時間 合科的・関連的授業を切り口に発生した課題作りと、教科で身につけた力を</p>
--------	--

	<p>駆使し課題解決を図る学習活動が、児童にとって生きて働く力となる。それはさらなる教科学習への取組みを強固なものにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科との関連を図る総合的な学習の指導計画の作成。 ・単元毎の評価規準の作成。 ・学ぶ意欲を高める自己評価と個人内評価カルテの作成。 <p>生活 児童の知的な気付きを拾い上げ、他の児童にも広げる活動をとおして、学びを高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される知的な気付きの洗い出しと支援の工夫。 ・単元毎の評価規準の作成。 ・学ぶ意欲を高める自己評価と個人内評価カルテの作成 <p>算数 個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫・改善をとおして、確実な基礎・基本の習得を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別コース学習を行うための指導計画の作成。 ・習熟の程度を確認するためのチェックテストの実施。 ・コース別学習の実践的研究。 ・評価規準の作成と「努力を要する」児童への支援。
--	---

平成16年度	<p>テーマ - 確かな学力の向上を図る教育の推進 - (継続)</p> <p>総合的な学習の時間：教科と直結し、発展する総合的な学習の時間で学力向上を図る。</p> <p>生活：知的な気付きのできる生活科学習で、学力の向上を図る。</p> <p>算数：少人数習熟度別学習を工夫した算数科学習で、学力向上を図る</p> <p>研究の見通し 総合的な学習の時間・生活科・算数科において継続研究を行い、確かな学力の向上を目指す。さらに算数科における習熟度別コース学習の研究を進め、個に応じた指導の充実を行い確かな学力の向上を目指す。</p> <p>研究の内容・方法 総合的な学習の時間・生活科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合科的関連的な授業を進め、児童が身に付けた知識や技能等が生かされた課題解決を行い、生きて働く力となるように指導を展開する。 <p>算数 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元指導計画の作成 授業実践 事後評価 ・学び方の習得 <p>発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための問題の開発 評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を高める自己評価 C評価からB評価に高める支援方法
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

総合的な学習の時間

本校としての、児童に育てたい力を明確にし(学習への意欲・課題設定する力・課題追究する力・表現する力・自分を見つめる力)それを基に単元毎の評価規準を作成した。さらに評価規準と自己評価を連記した個人内評価カルテを作ったことで児童の学びの姿を見取ることができた。

生活

個人内評価カルテを作成したことで児童の活動を様々に見つめることができ、指導に生かすことができた。

算数

習熟の程度に応じたコース別学習では、児童が大変意欲的に授業に臨む姿が見られ、学習への意欲が高まっている。また発展コースでは多様な考えの意見交換がなされ、授業が従前より深まっている。習熟度別コース学習を行うにあたり、保護者への説明を段階的に行い、理解を得てスタートできた。

2. 今後の課題

総合的な学習の時間

- ・全体計画の見直し
- ・個に応じて児童のよさを伸ばす評価の工夫

生活

- ・知的な気付きのできる授業の創造
- ・個に応じて児童のよさを伸ばす評価の工夫

算数

- ・習熟度コース別学習の拡大と充実
- ・算数における児童の学び方の習得
- ・個人差に応じた指導の充実を図るための問題開発
- ・C評価からB評価に高めるための指導の工夫

学力等把握のための学校としての取組

標準学力検査を実施

目的：指導した内容が児童に身についているかどうか、またそれにより指導の方法が適切であったかなどを客観的に確認するため。

実施内容：国語・算数

時期：2月上旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究授業会 10/22 算数 第6学年「変わりかたを調べよう」

1/27 総合 第4学年「伝えよう見つめよう心と心」(福祉)

杉戸町教育研究会の授業研究会を通して、町内の先生方や保護者に公開した。

* P T A 広報誌に学力向上フロンティアスクールの取組み状況を掲載

* H P については、今年度中に作成の予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他 総合的な学習の時間
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無